

# 災害人文学研究会 2018年度第7回研究会

## ドキュメンタリー映画『ガレキとラジオ』を観る

被災地のために、  
映画にできること。

一人ひとりの力は  
小さいけれど、  
みんな集まれば奇跡が起きる。



# ガレキとラジオ

南三陸町に生まれた小さな災害ラジオ局が起こす、涙と笑いと感動の物語。

ナレーション

主題歌

役所広司 「トビラ」 MONKEY MAJIK binyrecords

監督：梅村太郎 塚原一成 撮影監督：久保健志 編集：田島直子 音楽監督：内山雄介 (otoco) 作曲：内山肇  
エグゼクティブプロデューサー：山国秀幸 企画プロデューサー：須賀大観 制作プロデューサー：乾雅人 ラインプロデューサー：藤永光太郎  
プロデューサー：岡岡奈緒子 志賀司 勝山高之 Coプロデューサー：金延宏明  
製作：ワンダーラボラトリー 企画・制作：博報堂/博報堂プロダクツ 制作協力：FOLCOM  
後援：観光庁/宮城県/南三陸町 配給・宣伝：アルゴビクチャーズ 2014年/HD/カラー/73分 ©映画「ガレキとラジオ」製作委員会  
www.311movie.com

### 2019年1月15日(火) 18:15~20:05

#### プログラム：

映画上映 | 18:15 ~ 19:35

意見交換 | 19:35 ~ 20:05

〈登壇者〉

山国秀幸氏

(『ガレキとラジオ』エグゼクティブプロデューサー)

山内明美氏

(宮城教育大学社会科学部教育講座准教授)

参加費：無料

申込：不要

問い合わせ先：

saigaijinbungaku@gmail.com

件名を「ガレキとラジオ」としてご連絡ください。

#### 会場：

東北大学川内北キャンパス

講義棟B棟101室

(宮城県仙台市青葉区川内41)

#### 交通アクセス：

・駐車場はございません。地下鉄東西線をご利用ください。

(最寄駅/キャンパス直結：川内駅)

・東北大学インタラクティブマップでは位置情報の取得が可能です。「川内 講義棟 B 棟」と検索してご利用ください。  
(<http://www.tohoku.ac.jp/map/ja/>)

主催：東北大学東北アジア研究センター  
共催：指定国立大学災害科学世界トップレベル研究拠点  
災害人文学ユニット

CNEAS

指定国立大  
災害科学 世界トップレベル研究拠点



東日本大震災に対応する形で、文化人類学・宗教学・歴史学は災害復興や防災に関わる調査研究事業を行うようになりました。従来、これらの学問分野は基礎研究を基軸とし応用的な側面は副次的な扱いでしたが、震災以降そうした状況は変化しました。具体的に言えば、文化人類学や宗教学は民俗芸能などの無形民俗文化財がもつ震災復興への役割についての実践的調査研究を、歴史学は地域の歴史文書資料に関わる保全活動を行ってきました。本ユニットは、これまで蓄積されてきたこれらの分野における災害に関わる実践的研究の成果を踏まえ、新たな研究領域の開発をふまえつつ、さらなる発展と総合化を行うことを目的とします。

災害の状況や体験者の証言、失われつつある地域の伝統行事や芸能などを記録し、背景の物語を交えてわかりやすく紹介する映像記録は、防災教育や被災地の歴史文化の継承・発展を喚起する媒体として文化財という意味もあります。東日本大震災に関連する映像は膨大であり、ドキュメンタリー映画だけでも数百タイトルが製作・上映されています。震災映像による地域社会の防災力を、震災前だけでなく震災後の災いを防ぐという意味も含めて活かすべく、国内はもちろんのこと海外の記録映画の製作者・研究者との研究会の開催および情報発信を通じて、震災映像をつくる・観る・伝える文化の発展と活用の方法論を探ります。

災害人文学ユニット ウェブサイト：<http://www.cneas.tohoku.ac.jp/unit/disaster/>

## 上映作品：『ガレキとラジオ』

### それでも、もう一度、被災地を応援したい。



2011年3月11日、日本の東北地方を襲った東日本大震災。宮城県・南三陸町も津波で大きな被害を受けました。それから2ヵ月後一被災地となった町に、自らも被災者である地元の人々が、地元の人々のために防災や避難情報を届ける一年間限定的災害ラジオ局「FMみなさん」が誕生します。自分たちも被災者だからこそ、ラジオを通して一人でも多くの人に笑顔届けたい。

その思いがスタッフたちを変えていました。

この映画は「FMみなさん」のスタッフとリスナー、彼らが生きる南三陸町の一年間を巡っています。監督はCMのクリエイティブディレクターとして活躍する梅村太郎と、TV番組の構成作家である藤原一成。学生時代からの友人でもある二人は震災直後、「とにかく自分の目で現実を見て出来る限りのことをしなければ!」との一心で東京から現地へ向かい、撮影を決意。本業の傍らで一年間かけて本作を完成させました。

その主旨に賛同し、スペシャルサポーターとしてナレーターをつとめたのは、『煽の記』『湯き』などの映画で世界にも知られる俳優の役所広司。そして同じく被災地である宮城県・仙台を拠点に活動する人気ロックバンドMONKEY MAJIKが主題歌を提供し、応援してくれました。また、映画の冒頭で避難を呼びかける防災無線の声には、南三陸町の町職員として自らの命と引き換えに町民を救った遠藤未希さんの肉声が使われています。

こうして作り手と出演者がそれぞれの立場から震災後を生きながら完成させた映画は、劇場公開終了後も、震災の風化防止や被災地域の応援を目的として、上映会という形で全国を回ってきました。しかし2014年3月、この映画について発表された報道を受けて、本作は上映の中止という苦渋の選択に踏み切ります。

ですがその後、出演者や南三陸町の皆さま、上映会主催者や映画を観てくださった方々による上映再開を望む声に変えられ、2014年10月に再出発することになりました。

かけがえのない人や思い出を失った痛みを抱えながら、それでも生まれ育った土地に根を生やして泣き、笑い、力強く生きる人々の記録と再生のプロセスは、今この瞬間も歩みを続けています。一度は中止を余儀なくされた上映が、ふたたび新たな一歩を踏み出すことができたのも、その軌跡の一部となるでしょう。それは私たち自身の物語であるとともに、明日への勇気と希望を生えてくれるものです。

### 感動と勇気を呼び起こす、小さな町のラジオ局の物語。

### 家はない、経験もない。でも明日はある…はず!

東日本大震災から約2ヶ月、60%以上の世帯が被災し8000名以上が避難生活を送ることになった宮城県の海沿いにある南三陸町に、災害ラジオ局「FMみなさん」は生まれました。体育館の隅でマイクに向かうのは、元・サラリーマンでリーダーの工藤さん、元・ダンブ運転手でシングルファーザーの和泉さんをはじめ町内で暮らす男女9人。総額840円のれっきとした「お仕事」です。でもラジオ経験者はゼロ! 放送中に大事なコメントが流れなかったり、和泉さんに至っては反抗期の息子さんから「向いてない」と言い返されてしまう始末……。とはいえクヨクヨしてもしよーがない。クリスマスにはモミの木を点灯式で町に光をともし、仮設だけと商店街も復活。慣れ親しんだ地元で暮らし続けるリスナーとともに、オンエアは日々続きます。年が明けて2012年、「FMみなさん」メンバーは、この町のために、もっともっと何か出来ないかと考えます。被災地だからこそ、この町にはもっと笑顔が必要。そしてその思いはある奇跡を生む――。かけがえのない人や思い出の別れは誰にもつかおとずれるもの。その痛みを抱えながら、それでも生まれ育った土地で笑い、泣き、笑うラジオ局とリスナーの人生は、明日に向かって歩き続ける。私たち自身の物語でもあるのです。



監督：梅村太郎、藤原一成 撮影監督：久保純宏、編集：田嶋直子、音楽監督：内山清介 (obon)、作曲：内山清介  
エグゼクティブプロデューサー：山田秀幸、企画プロデューサー：渡辺大輔、制作プロデューサー：野間人、ラインプロデューサー：藤永光太郎、Coプロデューサー：金井安明  
プロデューサー：長岡幸雄子、志賀剛、神山貴之、製作：ワンダーラボラトリー、企画・制作・編集・録音・音編集・アフレコ・制作協力：FOL.COM、配給・宣伝：アルゴシネテアーズ  
後援：観光庁/宮城県/南三陸町 2014年/HD/カラー/73分 ©映画「ガレキとラジオ」製作委員会 www.311movie.com

### 意見交換 登壇者

山国秀幸

(やまくに・ひでゆき)  
『ガレキとラジオ』エグゼクティブプロデューサー。

(株)ワンダーラボラトリー代表取締役・映画プロデューサー。

映画『ケアニン～あなたでよかった～』『天使のいる図書館』など企画・原案・プロデュース。一般社団法人地域デザイン学会(参与)

--

山内明美

(やまうち・あけみ)  
宮城教育大学  
社会科教育講座准教授

修士(学術)。専門は社会学、地域社会学、歴史社会学。

自然災害の多発地域である三陸沿岸部の農漁村をフィールドに、「地域は如何にして、繰り返された災害を乗り越えてきたのか」を検証調査している。森・里・川・海といった自然と生業を背景とする生存基盤、風土形成、人的ネットワークなど重層的な生存の仕組みを明らかにし、行政単位とも異なる流域圏をとりまく持続可能な地域について検討している。